

目指す学校像	○生き生きと学ぶ学校 ○豊かな心を育む学校 ○安心して安全な学校 ○地域とともに歩む学校
--------	--

重点目標	1 基礎的・基本的な内容の徹底を図る学習指導の実践 2 生徒一人ひとりに応じた健康・安全指導の徹底 3 開かれた学校づくりの推進 4 ユニバーサルデザインを意識した授業づくりの実践
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和6年2月5日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	「現状」 ・全国学力・学習状況調査並びにさいたま市学習状況調査の結果から、基礎学力の不足が顕著である。 ・各アンケート結果から家庭学習が習慣化しておらず、基礎的・基本的な事項が定着していない生徒が多い。 ・学習意欲はあるが、学習法、学習環境に課題がある生徒が多く、体験的な活動についても経験が少なく自ら課題を発見、解決しようとする様子が少ない。 ・日本語を母国語としない生徒が多く、課題を理解できない生徒がいる。 「課題」 ・家庭学習時間の確保・増加 ・基礎的・基本的事項の定着 ・日本語指導、体験的な活動の充実 ・自己肯定感、有用感の高まりによる意欲の向上	家庭学習時間の確保・充実 基礎的・基本的事項の定着 学習に対する達成感・成就感を味わう経験の充実	・1P 学習ノートを行い、毎日点検することにより具体的な学習時間の確保を図る。 ・ICT 機器を活用し、スタディサプリ等を積極的に活用し学習方法の定着を図る。 ・保護者会・学校だより、学年だより等を通じて家庭での学習環境の整備を啓発する。 ・キャリアアップテストを実施し、学習意欲、達成感・成就感の経験値向上。 ・放課後自習室を設置し、機会を提供。 ・日本語指導において、取出し授業だけでなく、入り込み授業を充実。	・1P学習ノートの提出率が昨年度比、全学年で10%向上させる。 ・家庭でのICT機器の学習における利用率20%を目指す。 ・学期に2回以上、啓発記事の掲載。及び保護者会での講話を行う。 ・キャリアアップテスト3級合格90%以上。1級合格60%以上 ・放課後自習室を年間30日以上設定するとともに取り出しによる個別学習会を30回以上設定する。 ・生徒アンケートにおいて「授業に積極的に取り組んでいる」の項目を向上させる(昨年度93%)。 ・対象生徒へのアンケートにおいて苦手意識の減少、理解度を向上させる。	・1P ノート提出については、1年生が約90%であるが、自主性を重視して提出を自発的な形態にする2・3年生では10%前後と自発的な家庭学習の定着とまでは至らなかった。しかし、生徒アンケートでは「家庭学習に積極的に取り組んでいる」の項目で87%が肯定的回答であった。また、ICTを活用した課題配信等は積極的に行っている。生徒の端末活用状況は市内でも上位に位置している。 ・2学期末の時点で教科によってばらつきはあるが、キャリアアップテスト3級合格率は60%、1級合格率は50%程度となっている。 ・生徒アンケートにおいて「授業に積極的に取り組んでいる」の項目は95%となり向上している。 ・苦手意識、理解度については、今後実施予定	B	・ICT機器をより一層活用するために職員の研修を推進するとともに生徒用端末の早期修繕が望まれる。 ・家庭学習の習慣化に向けた取り組みを再度検討し、定着を図る。 ・自習スペース、人員配置、運用法について検討が必要である。アシスタントティーチャーの配置等を検討、要請する。	・基礎学力定着に向けて。地域人材の活用を検討するとよいのではないかと。 ・今年度は体験的な取り組みができたので、児童生徒の意欲を高めることができた。次年度以降も継続できるとよい。 ・チャレンジスクールが充実していた。	
2	「現状」 ・学校施設・設備を原因とした事故は令和4年度0件であり、金銭事故についても0件である。 ・不登校傾向にある生徒は令和4年度末現在29名おり、本人とともに家庭的な支援が必要と思われる家庭も多い。 「課題」 ・安全点検、安全指導の一層の充実 ・不登校生徒の減少 ・生徒一人ひとりに応じたきめ細かい支援 ・医療機関、福祉関係機関との連携強化	安全確認及び監査の徹底 きめ細かい教育相談活動及び不登校対策	・安全点検(定期・不定期)の完全実施及び複数によるチェックを行う。 ・迅速な補修、修繕依頼を行えるよう報告・連絡体制を確立する。 ・予算執行に係る複数チェックを必ず実施する。 ・点検・監査を着実に実施するよう体制構築する。学期に1回点検、年度末監査。 ・定期的な生徒指導部会、教育相談部会の毎週開催による情報共有と方策の検討を行う。 ・関係諸機関(児童相談所、医療機関、教育相談室等)と連携するとともに定期的にケース会議(毎学期)、情報交換会(毎学期)等を実施する。 ・日本語指導を含めた補習を行い、学力を保証する。	・安全点検完全実施及び修繕の着実かつ迅速な実施 ・学校施設・設備を原因とした事故0、金銭事故0 ・複数による監査の実施	・安全点検完全実施及び修繕の着実かつ迅速な実施 ・学校施設・設備を原因とした事故0、金銭事故0 ・複数による監査の実施 上記3項目を達成している。	A	・今後とも点検の完全実施、迅速な修繕に努めるとともに、事故0を継続する。 ・関係機関との連携をより強化し、生徒個々に応じた学びの形に対応できるように態勢を構築する。 ・スクールダッシュボードの導入により、さらにきめ細かい生徒への寄り添いを行っていく。	・特になし	
3	「現状」 ・学校評価によると職員、保護者共に学校からの情報発信がやや不足していると感じている。 ・コロナ禍もあり、地域と連携した取り組みが少なくなっている。 「課題」 ・保護者、地域への情報発信・収集の充実 ・地域と連携した取り組みの拡充	情報発信・収集 地域連携	・学校だよりの紙面に「学校への意見・提言」欄を設置し、保護者や地域の方が何時でも意見を述べられるようにする。 ・学年通信、学級通信等の意義・目的、紙面構成等について研修資料を配付し、充実を図る。 ・生徒会や部活動で地域行事等に参加し、学校活動の紹介や地域との協働作業を行う。 ・ボランティアを募り、地域での活動(清掃や花壇整備等)を行うことにより情報を発信する。	・保護者アンケートにおいて学校の情報発信の項目の否定的意見を1%減少(R4 2%) ・1学期中に資料配付 ・生徒会本部による地域施設へのプラントー設置と活動紹介の掲示を6施設以上で行う。 ・学区内清掃または関係機関と連携した公園内花壇整備を1回以上行う。 ・生徒の地域行事参加を1回以上行う。	・保護者アンケートにおいて学校の情報発信の項目の否定的意見は0となり、目標値を達成した。 ・研修については資料提示できなかったが、通信発行時に管理職が指導・助言することで充実を図った。 ・生徒会本部による地域施設へのプラントー設置と活動紹介の掲示を郵便局、信用金庫、老人福祉施設、公民館2で行うことができたが、予算等の制約もあり、設置場所は5か所となった。 ・生徒の地域行事参加を2回行うことができた。	B	・授業公開や保護者会、各種便り等を積極的に発信する。 ・学校行事をできる限り開放し、保護者や地域と一緒にになって取り組める形態を模索していく必要がある。 ・生徒会本部だけでなく、他の生徒専門委員会や部活動、ボランティアの募集など、多様な活動を企画していく必要がある。	・地域人材の掘り起こしを進めるべき。 ・時間・マンパワー・資金等の課題解決に向けた方策を検討したい。	
4	「現状」 ・採用5年以下の教員が半数近くおり、小規模校であるが故に教科の研修機会が少ない。 ・職員の研修意欲は比較的高い。 「課題」 ・小規模校ゆえに校内事情から研修会への参加しにくい状況を改善する必要がある。	職員の資質向上	・職員と面談を学期に1回以上実施し、信頼関係を醸成するとともに個々に応じた研修を奨励する。 ・ベテラン職員と若手職員とのOJTチームによる授業研究会を2回以上設定。 ・研修会への計画的な参加のための校内体制構築。 ・校内研修の充実。	・教職経験5年以下の教員のアンケートで授業マネジメント及び授業スキルの項目において年度当初より0.3ポイント上昇させる。 ・ユニバーサルデザインを意識した授業研究を全教員が2回以上実施する。	・アンケートを実施することができなかったが、研究授業や公開授業を通して授業力向上は感じることができた。 ・OJTの観点では、エバンジェリストを中心に、ICT機器の活用を広めることができた。 ・学校課題研修としてユニバーサルデザインを意識した授業研究を行った。	B	・計画的な旅費の支出により、各種研修会への積極的な参加を促す。サポート態勢の強化が課題となる。	・特になし	

目指す学校像	○生き生きと学ぶ学校 ○豊かな心を育む学校 ○安心で安全な学校 ○地域とともに歩む学校
--------	---

重点目標	1 基礎的・基本的な内容の徹底を図る学習指導の実践 2 生徒一人ひとりに応じた健康・安全指導の徹底 3 開かれた学校づくりの推進 4 ユニバーサルデザインを意識した授業づくりの実践
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標				年度評価			実施日令和7年2月3日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	「現状」 ・全国学力・学習状況調査並びにさいたま市学習状況調査の結果から、基礎学力の未修得が顕著である。 ・各アンケート結果から家庭学習が習慣化しておらず、基礎的・基本的な事項が定着していない生徒が多い。 ・学習意欲はあるが、学習法、学習環境に課題がある生徒が多く、体験的な活動についても経験が少なく自ら課題を発見、解決しようとする様子が少ない。 ・日本語を母国語としない生徒が多く、課題を理解できない生徒がいる。  「課題」 ・家庭学習時間の確保・増加 ・基礎的・基本的事項の定着 ・日本語指導、体験的な活動の充実 ・自己肯定感、有用感の高まりによる意欲の向上	家庭学習時間の確保・充実  基礎的・基本的事項の定着  学習に対する達成感・成就感を味わう経験の充実	・1P学習ノートを行い、毎日点検することにより具体的な学習時間の確保 ・ICT機器活用のための研修会を1回以上実施し、ICT機器を積極的に活用した指導力向上 ・保護者会・学校日より、学年日より等を通じて家庭での学習環境の整備を啓発  ・基礎学力定着テストを実施し、学習意欲、達成感・成就感の経験値向上 ・朝読書の時間の取り出し学習や昼休みの学習会等の積極的な学習機会の提供 ・日本語指導において、取り出し授業だけでなく、入り込み授業の充実	・1P学習ノートの提出率が昨年度比、全学年で10%向上 ・ICT機器の学習における活用率10%向上 ・学期に2回以上、啓発記事の掲載。及び保護者会での講話の実施  ・取り出しによる個別学習を30回以上設定 ・基礎学力向上を学校課題とし、外部講師を招聘した職員研修を2回以上実施 ・生徒アンケートにおいて「授業に積極的に取り組んでいる」の項目の向上(R5 97%) ・対象生徒へのアンケートにおいて日本語や教科の学習について苦手意識の減少、理解度の向上	・1P学習ノートについては周知・徹底が不十分であり、学級ごとの取り組みの差が出てしまった。 ・個別の取り出し授業や昼休み学習会を実施し、授業時間以外の学習機会を設定した。 ・ICT機器活用については、各教科によって差があるが活用率は上がっている。 ・学校日より、学年日よりにおいて学習面に関する記事を掲載することができた。また、保護者会においては毎回学習面での話をしている。  ・取り出し授業については30回以上行うことができた。 ・「指導と評価の一体化」をテーマとして学力向上研修を実施した。 ・学校評価の生徒アンケートにおいて「授業に積極的に取り組んでいる」の項目は93.6%であったが、「授業がわかりやすい」の項目では57.3%(R5 54%)が「そう思う」の評価であった。 ・日本語指導は計画通りに実施、生徒の苦手意識の減少に繋がった。	B	・生徒の意欲向上に向け、学習機会の確保とともに、自己肯定感、自己有用感の向上。 ・授業力向上に向け、粘り強く学習に取り組む態度の育成に関する教職員研修の充実。  ・各教科ではなく、全校的な規模での学力向上キャンペーン等の動きも必要。 ・ICT機器活用に向けた研修の充実。 ・「個に応じた学習」について更に研究を深める。	・日本語指導の必要な生徒は、英語だけでなく、多様な言語を母国語としているので、さらに充実が必要である。  ・学習指導についてはさらに保護者への広報、啓発が必要である。
2	「現状」 ・学校施設・設備を原因とした事故は令和5年度0件であり、金銭事故についても0件である。 ・不登校傾向にある生徒は令和5年度末現在18名おり、本人とともに家庭的な支援が必要と思われる家庭も多い。  「課題」 ・安全点検、安全指導の一層の充実 ・不登校生徒への個別支援 ・生徒一人ひとりに応じたきめ細かい支援 ・医療機関、福祉関係機関との連携強化	安全確認及び監査の徹底  きめ細かい教育相談活動及び不登校対策	・安全点検(定期・不定期)の完全実施及び複数によるチェックの実施 ・迅速な補修、修繕依頼を行えるよう報告・連絡体制の確立 ・予算執行に係る複数チェックの実施 ・点検・監査を着実に実施するよう体制構築する。学期に1回点検、年度末監査の実施  ・定期的な生徒指導部会、教育相談部会の毎週開催による情報共有と方策の検討の実施 ・関係諸機関(児童相談所、医療機関、教育相談室等)と連携するとともに定期的にケース会議(毎学期)、情報交換会(毎学期)等の実施 ・スクールダッシュボード(おはようメーター)を活用した迅速な対応	・安全点検完全実施及び修繕の着実かつ迅速な実施 ・学校施設・設備を原因とした事故0、金銭事故0 ・複数による監査の実施 ・ペーパーレス化による学校予算の有効活用  ・不登校傾向生徒が、専門職や外部機関の支援を受けている生徒の割合向上(R5 55%) ・心と生活のアンケートにおいて元気度を平均0.3ポイント上昇(R5 17.8ポイント)	・安全点検完全実施及び修繕を着実かつ迅速に実施できた。 ・学校施設・設備を原因とした事故0、金銭事故0を達成した。 ・複数による監査を実施予定。 ・配信アプリの導入により、ペーパーレス化が進んでいる。  ・2学期末時点において関係機関と連携できていない生徒は1名であり、他生徒は何らかの形で専門職や外部機関の支援を受けている。 ・心と生活のアンケートにおける元気度は2学期時点において18.04となり、ほぼ目標を達成できたと考える。	A	・ペーパーレス化の検証を行い、さらなる予算削減。 ・教員減少に伴う、日常的な点検システムの見直し。  ・さらにきめ細かい教育相談・生徒指導体制の強化 ・小学校とのさらなる連携強化。	・ペーパーレス化に伴う予算減少について具体的な金額を明示してはどうか。  ・きめ細かい指導とともに、子供の変化に柔軟に対応してほしい。
3	「現状」 ・学校評価によると保護者は学校からの情報発信やきめ細かい連絡等がやや不足していると感じている。 ・地域と連携した取り組みや体験的な学習が少なくなっている。  「課題」 ・保護者、地域への情報発信・収集の充実 ・地域や保護者と連携した取り組みの拡充	情報発信・収集  地域連携	・学校だよりの紙面に「学校への意見・提言」欄を設置 ・学年通信、学級通信等の意義・目的、紙面構成等について研修の実施  ・生徒会や部活動で地域行事等に参加し、学校活動の紹介や地域との協働作業の企画、実施 ・ボランティアを募り、地域での活動(清掃やあいさつ運動等)を行うことによる情報の発信	・保護者アンケートにおいて学校の情報発信の項目の否定的意見を3%減少(R5 13%) ・1学期中に発行担当者への指導助言を実施  ・生徒会本部による地域施設へのプランター設置と活動紹介の掲示を6施設以上で実施 ・学区内清掃または小・中合同の挨拶運動等の関係機関と連携した活動を1回以上実施 ・生徒の地域行事参加を2回以上企画	・保護者アンケートにおいて学校の情報発信の項目の否定的意見は8%となり、5%減少した。 ・1学期中に発行担当者への指導助言を実施することができた。  ・生徒会本部による地域施設へのプランター設置と活動紹介の掲示を4施設で実施したが、新規施設を増やせなかった。 ・学校運営協議会主催の小・中合同の挨拶運動を2学期以降毎月実施することができた。 ・地域行事へ生徒は2回以上参加した。	B	・定期的かつタイムリーな情報発信とともに双方向の情報共有システムの構築。  ・地域連携方法のさらなる開拓。 ・学校行事への保護者や地域住民の参加機会の創出	
4	「現状」 ・採用5年以下の教員が半数近くおり、小規模校であるが故に教科の研修機会が少ない。 ・職員の研修意欲は比較的高い。  「課題」 ・小規模校ゆえに校内事情から研修会への参加しにくい状況を改善する必要がある。	職員の資質向上	・職員と面談を学期に1回以上実施し、信頼関係を醸成するとともに個々に応じた研修を奨励 ・学校課題研修(基礎学力定着)にむけた授業研究会を2回以上設定 ・研修会への計画的な参加のための校内体制構築 ・校内研修の充実。	・教職経験5年以下の教員のアンケートで授業マネジメント及び授業スキルの項目において年度当初より0.3ポイント上昇させる。 ・学校課題研修(基礎学力定着)、ユニバーサルデザインを意識した授業研究を全教員が2回以上実施	○教職経験5年以下の教員の「学びの指標」アンケートで授業マネジメント及び授業スキルの項目において年度当初より平均値0.3向上まではいかなかったが、2名(全3名)が向上した。 ・長期休業等利用し、希望研修会に積極的に参加する教職員が増加している。	B	・研修会等の周知 ・各分掌が発案する校内研修の実施。  ・人的配置をさらに要望していく必要がある。	